

十勝の金融経済概況

1. 全体感

十勝の景気は、東日本大震災の影響による下押し圧力が和らぐ中で、持ち直しの動きが続いている。

最終需要面をみると、個人消費は、震災の影響が和らぐ中で、持ち直している。設備投資は、持ち直しつつある。雇用情勢も、持ち直しの動きが続いている。一方で、公共投資は、弱めの動きとなっている。住宅投資は、月々の振れを伴いながら、弱めの動きを示している。

2. 最終需要の動向

(設備投資)

設備投資は、持ち直しつつある。

(個人消費<含む観光>)

主要小売店の売上高(8月、10社)は、気温の低下等から、食料品の販売が伸び悩んだため、全体ではほぼ前年並みに止まった。

耐久消費財の売行きをみると、家電販売がテレビの買換え需要の反動から減少したものの、乗用車販売(新車登録届出台数、9月)が、震災後の供給制約の緩和から引き続き持ち直した。

旅行・観光関連では、道内客を中心とした入込みや観光イベントによる集客から、総じて回復傾向にある。すなわち、とち帯広空港の乗降客数(9月)は持ち直しており、十勝川温泉の宿泊客数(8月、4社)や市内ホテルの宿泊客数(8月、8社)も、前年を上回った。

(住宅投資)

月々の振れを伴いながら、弱めの動きを示しており、新設住宅着工戸数(8月)は、持家、貸家ともに3か月振りに前年を下回った。

(公共投資)

公共工事請負金額(9月)は、年度初からの累計額では依然として前年を下回っており、基調としては弱めの動きとなっている。

3. 生産・雇用・企業倒産の動向

(農業・食料品)

生乳生産量(8月)は、乳牛分娩数の回復に伴い、ほぼ前年並みの水準を確保した。乳製品生産量(8月)は、本州における生乳生産の回復等による原料である生乳の道外移出の減少から、前年水準を若干上回った。

農作物の生育状況(10月1日現在)は、大雨や台風の影響で一部に農作物の被害や農作業の遅れが見られるが、生育状況は全体的に順調である。

(木材)

製材品の生産量(8月)は、カラマツ材で自動車メーカーの生産回復に伴う梱包用材向け需要が増加しているほか、エゾトドマツ材でも足元での住宅着工増の影響から需要に動意が窺われるため、全体では前年を上回った。

(電力消費)

電力消費量(8月、除く電灯)は、電気機械、食料品製造業等の大口電力で増加しているが、冷房需要の減少等から、全体では前年を下回った。

(労働需給)

求職・求人状況(8月、常用)をみると、有効求人数の伸びが、有効求職者数の伸びを上回った結果、有効求人倍率は0.59倍と前年同月(0.58倍)を24か月連続して上回った(+0.01ポイント)。

(企業倒産)

企業倒産(9月、負債額10百万円以上)は、件数3件、負債総額1,029百万円となり、件数、負債総額ともに前年(2件、負債額200百万円)を大きく上回った。

4. 金融情勢

(預金動向)

帯広市内金融機関の実質預金残高(8月末)は、個人向け国債償還金の歩留まりを主因に、引き続き前年を上回った。

(貸出動向)

貸出残高(8月末)は、法人向けが低調なため、ほぼ前年並みの水準に止まった。

この間、貸出約定平均金利(8月末、総合)は、銀行、信金とも、ほぼ前年並み圏内となった。

(銀行券)

銀行券の動き(9月中)をみると、発行額が前年を下回り、還収額は前年を上回ったため、発行超額は37億円と前年(39億円)を下回った。

以 上